2022.06.14開催　報告資料

ASK歩く会
等々力渓谷から九品仏、
自由が丘巡り

世話人(金作・原田・大出・稲田)

開催日　　2022年6月14日(火)　曇り

出発　　新百合ヶ丘駅

　　午前　9時11分

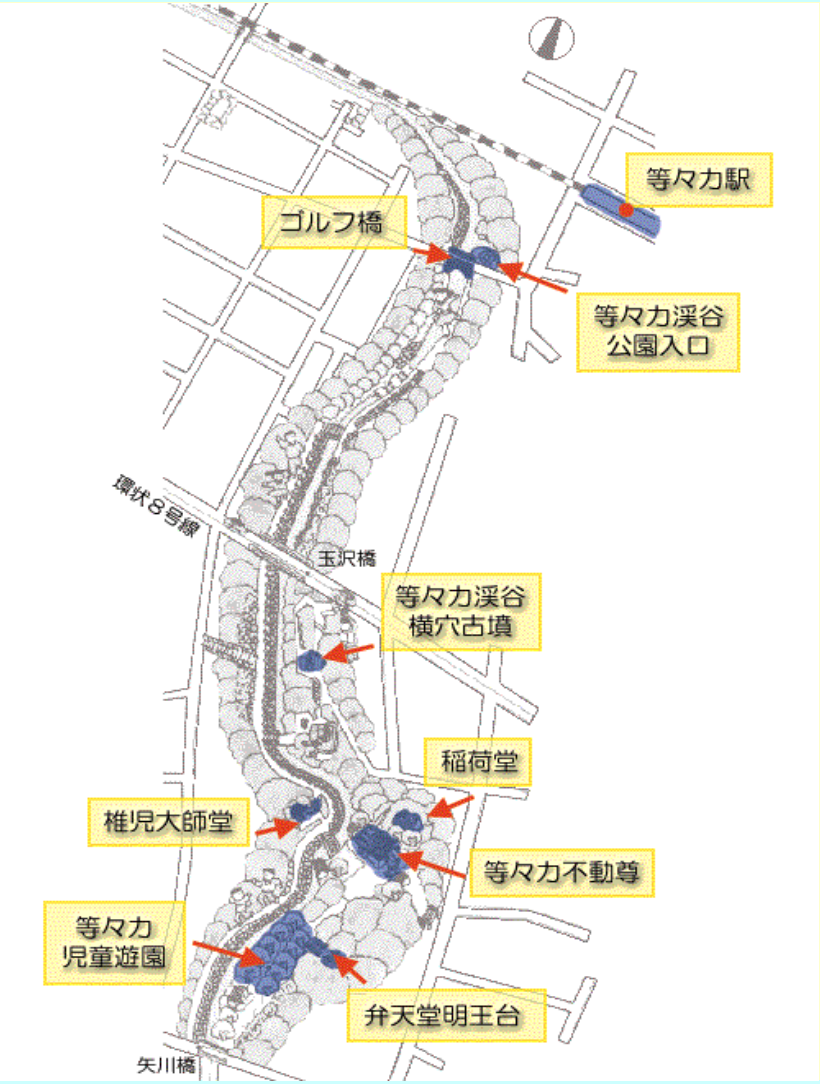
解散　　午後　1時10分(自由が丘駅)

参加者　　18名

コース

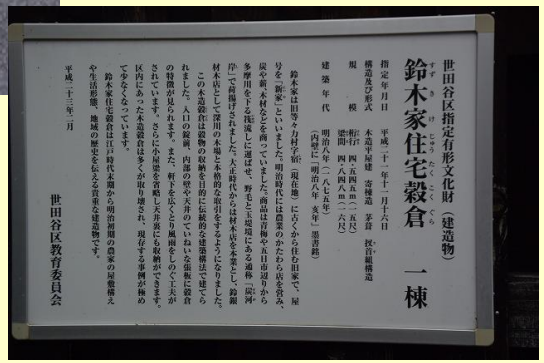
新百合ヶ丘駅 ⇒登戸駅⇒武蔵溝ノ口駅⇒東急溝の口駅⇒等々力駅⇒等々力渓谷⇒等々力不動尊⇒等々力駅 ⇒世田谷区玉川総合支所⇒尾山台駅前(コロッケ)⇒九品仏浄真寺⇒九品仏川緑道⇒自由が丘駅(解散)

等々力渓谷



武蔵野台地の最南端に位置する約1キロメートルの都区内唯一の渓谷。谷川沢（やさわがわ）が、多摩川に合流する手前で、国分寺崖線(ハケ)を浸食して出来たもので、台地と谷との標高差は約10mです

鈴木家住宅前



マスクをちょっと外して、久しぶりに撮影！

等々力渓谷入口より下る

足元に気を付けて！

矢沢川に沿って歩く

静かな渓谷です

渓谷橋を渡って対岸へ

ちょっと一休み

更に進む

歩みも軽やか

途中で階段を登ると？・・・

歩いている途中で、階段を登ると野毛大塚古墳に行けることを紹介しましたが、今回は省略

等々力渓谷と古墳群を巡る2015年5月22日

野毛大塚古墳

野毛大塚古墳は関東地方の中期古墳文化を代表する5世紀前半に築造された全長82メートル、後円部の高さ10メートルの帆立貝式の前方後円墳

不動の滝

等々力不動尊発祥のもととなった不動の瀧。龍の口から湧水が流れ落ちている

等々力不動尊本殿へ登る

かなりの段数です

等々力不動尊拝殿

寺号は「満願寺」、正式名称は「滝轟山明王院」という。宗派は真言宗智山派で、ご本尊は金剛界大日如来。開創は平安時代の末。渓谷の自然美豊かな世田谷のお不動様として親しまれている

展望台

残念ながら見晴らしは？？

世田谷区総合支所

等々力渓谷から戻り、等々力駅前の世田谷区総合支所で一休み

九品仏浄真寺へ向かう

等々力通に沿って

尾山台駅前でコロッケタイム

小腹が減ったので、いつもの楽しみ

菊坂コロッケ　2014年9月24日本郷台地体験

菊坂の途中に、人気の菊坂コロッケを売る「まるや肉店」がある。
手間暇かけた愛情たっぷりのさくさくしたコロッケを美味しく頂いた。
ビール、酎ハイも・・・　ASK歩く会の定番になりました

金色のポスト

東京2020大会のオリンピックゴールドメダリスト等の功績をたたえる記念ゴールドポストだそうです。等々力通りから参道に入る角にありました

浄真寺参道

真っすぐ伸びる参道

九品仏　浄真寺

浄土宗の寺。山号は「九品山」。「九品仏」（くほんぶつ）とは、一義的には、同寺に安置されている9体の阿弥陀如来像の事だが、一般には同寺の通称となっている。転じて、同寺の周辺の地区を指す場合にも用いられる

九品仏

広い境内の本堂の対面に3つの阿弥陀堂があり、それぞれに3体、合計9体の阿弥陀如来像が安置されている。この9体はそれぞれ、上品上生（じょうぼん・じょうしょう）、上品中生、上品下生、中品上生、中品中生、中品下生、下品上生、下品中生、下品下生という、浄土教における極楽往生の9つの階層を表しており、これらをあわせて九品（あるいは九品往生）という

九品仏大修繕事業

延宝六年（1678 年）に開山された浄眞寺。造立から三百年余りが経 過して劣化が目立つようになった九躰の阿弥陀如来像の初めての修繕 作業が順次進められており、修繕期間は 2014 年～2034 年。。034 年。

総門

文政年間（1818-1831年）以降に建立

山門(仁王門)

1793年建立

下品堂

3棟の阿弥陀堂は南（むかって左）から下品堂、上品堂、中品堂で、一列に並んで本堂に相対し、合わせて三仏堂とも呼ばれ、3棟とも1698年の築

下品中生仏大修繕完了

2022年4月3日完了

本堂

釈迦如来像

九品仏川緑道

1974（昭和49）年に九品仏川を暗渠化して造られた緑道で、目黒区と世田谷区にまたがる全長約1.7km。地元で、憩いの散歩道として親しまれている。

九品仏川緑道

自由が丘駅まで歩きました

等々力駅前で解散

心配された雨降りも殆どなく無事終了しました

等々力駅ビルで昼食

男性メンバー有志で　　女性はどうしたのかな

ご静聴有難うございました

8 ＜今後の予定＞

8月27日(土)

麻生区近郊散策＋しんゆり寄席鑑賞

これからも、コロナウイルスの感染状況等を注視して、皆様の希望を踏まえて計画します